

## 誠愛リハビリテーション病院・小児リハビリテーションのひろば

### 「脳を育む：発達障害の視点から」

(平成 22 年 2 月福岡・子育てを考える会要旨)

演者 誠愛リハビリテーション病院 名誉院長 黒川 徹



- ① 発達には歩行、摂食、睡眠、排泄などいろいろの分野の発達がある。
- ② こどもの発達を手助けするには イ) 手間ひまかけて可愛がる、ロ) 早寝、早起き、朝ごはん、ハ) テレビより親子の会話 (親は機関車、子は客車)、ニ) 分からせる、ほめる、反復練習、憧れを持たせる。
- ③ 母子相互作用は対人関係の基本。生まれた直後の五感の役割。目；目と目のコンタクト、母親の顔はもっとも見えやすい大きさと明るさをしている、耳：母親からの声かけはもっとも聞こえやすい、皮膚：接触による安心感、匂い：生まれて 5 日で覚える母の匂い、味：母乳の味と温度。
- ④ 「早寝、早起き、朝ごはん」とこどもの能力には関係がある。  
早起きは大人の自己研鑽にも有用。
- ⑤ あるがままのこどもを大切に：こどもには自分でやってみたい・伸びたい気持ちが強い、繰り返してあきない、褒められて喜ぶ、そして侮辱に敏感。  
(モンテッソリー)
- ⑥ 行動療法は生きやすくする技術。
- ⑦ こどもの成長を伸ばすには、できることは自分でさせる、スモールステップ、新しいことを学ぶ、反復練習、形づくりと消去。
- ⑧ 脳の機能と構造の関係。能力が変われば脳は変わる。脳が変われば能力も変わる。
- ⑧ 「やって見せねば人は動かず」大人の教育における山本五十六の教訓。  
こどものほめ方。
- ⑨ 脳における集中力の中核、記憶と情緒の中核。
- ⑩ 健康づくりは習慣づくり、勉強づくりも習慣づくり。
- ⑪ 時間の構造化、場所の構造化 → 大リーガーから学ぶ勉強の時間と場所を決めることの大切さ。
- ⑫ 発達の遅れたこどもから優秀なこどもまで：障害児療育の理論は受験勉強にも応用する価値がある。
- ⑬ 心身症の年代的推移
- ⑭ 人生の区分と人生 100 歳時代の過ごし方：  
冬 (玄冬)、春 (青春)、夏 (朱夏)、秋 (白秋)。

